



萩市須佐地域

公民館だより

令和6年

5月

第610号

須佐地域生涯学習推進

マスコット「まな坊」

※題字は昭和48年発刊第1号時のもの

集おう！学ぼう！
手をつなごう！

発行/須佐公民館 〒759-3411 萩市大字須佐4570-1 TEL08387-6-2310 FAX08387-6-2030

弥富公民館 〒759-3302 萩市大字弥富下4043 TEL08387-8-2044 FAX08387-8-2212

特定非営利活動法人 須佐元気なまちづくりネット

祝 1年生になりました！



いわきそうま おおたにゆうせい まつばらことは むくのきあかり
岩城蒼真 大谷侑誠 松原琴葉 棕木朱里
くどうそうじゅ のむらきすな はらだしんぼ ひこたとしゆき ふくしまるか
工藤双樹 野村絆成 原田真羽 彦田哉志 福島瑠夏

育英小学校の入学式で（体育館内）

～詳細は5ページ～

今月の話題

○須佐公民館合同学級開催！周南市へ・・・2P

○新年度教室はじまりました！

生き活き教室つどい会…楽しくポッチャ・・・3P

クラブ活動の紹介「生き活き体操」

○弥富地区の放課後子ども教室：わらび採取・・・4P

○小・中学校入学式：9名が新1年生に（表紙）・・・5P

○地域おこし協力隊：山本一貴のつぶやき・・・8P

○40年前の須佐：よこじま広場完成・・・11P



入場の様子

須佐公民館合同学級開催

26名が地域外で視野を広める



4月17日（水）、須佐公民館で活動をしている「あおば勉強室」「さつき学級」、元気な高齢者を支援する「生き生き教室」の3つの学級が合同で地域外へ出かけました。

この合同学級は、コロナウイルス感染拡大が緩和され、制限のない生活が始まりましたが、「何をしたいかわからない」という声を聞いたり、また、行事イベント等への参加も少ないことから、年度初めでもあ

り、久しぶりに地域外へ出かけて視野を広めようと周南市大道理（おおどおり）へ出かけました。



周りの芝桜を鑑賞しながら散歩する参加者

最初に、大道理の芝桜を見に行きました。会場に着くとすぐ入り口付近の高台の芝桜全体が見渡せる場所で、全員で記念写真を撮り、その後、約1時間ちよつとの間、自由行動としました。

参加者は、ゆっくり歩きながら芝桜を眺め、良いスポットがあれば、

持って来たカメラで写真を撮ったり、友達と楽しそうにおしゃべりしたりしながら歩く姿も見られました。中央付近には、桜大福を売っているお店もあり、「おいしそうだね〜」と買い求める参加者もおられました。この日は、天気も良く絶好のお出かけ日とで、「とってもきれいだねえ」「外へ出るのは久々で気持ちいいねえ」と皆さん喜んでおられました。

会場を出る時、芝桜を管理しておられる「百笑倶楽部」の方がおられ、「大変ですね」と声を掛けると、「皆さん高齢になり、人もなかなかいないので、管理するのも大変です。いつまで続くかわかりません」とおっしゃっていました。

高齢化が進み、後継者不足に悩んでいるのは、どこの地域も同じだなあと改めて思いました。

芝桜を見た後は、道の駅ソーネ周南で昼食休憩をとりました。軽食やレストランもありましたが、参加者のほとんどが店内に売っているお弁当を買い、外のテラスで食べていました。昼食が終わると、すぐ店内に戻り、今度は買い物が始まりました。「おばちゃんパワーはすごいなあ」と感心しました。

休憩が終わると、最後に「永源山公園」へ寄りました。ここは、限らない活力の源である「水」をテーマ



風情のある「ゆめ風車」



水柱がきれいなモニュメント

としている場所、山頂には、市民の皆さんに郷土のシンボルとして親しまれている『ゆめ風車』が建っており、そこから都市の風景も眺められます。また、市制記念広場には、噴水のモニュメントがありました。

疲れた参加者は、掲げてある大きなこのぼりを見ながら、ベンチに座って他の皆さんがグルッと回って帰って来られるまで、おしゃべりしながら待つておられました。

今回の合同学級を機に、他の皆さんにも声をかけあつて頂き、今後の学級や行事イベントなどにも、多くの方が参加して頂けたらと思います。今年度もよろしくお願いします。

生き活き教室

ポッチャでハッスル!

R6年度初 つどい会

新年度第1回目のつどい会は、弁当を作って久原園地で花見を予定していましたが、明け方からの雨で花見を中止し、弁当は須佐公民館で食べました。



レストランのランチみたい

今までで一番のポリュームで、酢の物・ごま和え・唐揚げ・筍の煮物など全部で9品のお花見御膳ができました。「今回もなかなかの量だね」「いつも以上のごちそうだけどこれから食べるか悩むね」と楽しそうに話されていました。午後からは、「ポッチャ大会」を行いました。つどい会でも何回かポッチャを楽しんでいます。最初は、初めての方もおられるので、ルールをもう一度確認し、ボールの転がり方や投げ方を一度練習してから試合となりました。

今回はチーム戦で行い、1チーム3人の3チーム総当たりで行いました。ジャックボールを投げ、ジャック



狙いを定めてボールを投げる参加者

クボールに自分のチームカラーのボールを近くに寄せて点を競うシンプルな競技なのですが、ただ投げるだけといってもボールが手から離れる瞬間にちよつと手の向きが変わってしまつて狙いとは逆の方向に玉が転がったり、強く投げたつもりが玉の重さで思ったよりも転がらなかったりと「ああそつちじゃない!」「止まっちゃったー!」などと苦戦されていました。試合が進むにつれて皆さんどんどんコツをつかんでこれ、ジャックボールにぴつたりボールをつけたら、相手の玉を弾き飛ばしたりとミラクルショットが出るようになりました。また、作戦を練るチームもあるなど白熱した試合となり、皆さんとっても楽しんでおられました。

今年度も、いろんなレクリエーションで盛り上げていきたいと思っています。多くの参加をお待ちしています。

歩こう会

地域の良いとこ
見つけ隊!!

生き活き教室編



心地よい春の空気に癒やされ、歩くのにも絶好の季節となりました。4月10日、今回は北谷地区から入江地区に抜け、久原園地を通して須佐公民館まで歩いて帰りました。



桜を見ながら歩く参加者

天気も良く、今年は桜も長く咲いていて、花見をしながら歩くことができました。また、久原園地の桜や須佐駅前から公民館までの歩道横には赤白黄のチューリップと、たくさん花を見ることができ、参加者も花を撮影しながら、楽しく歩くことができました。

クラブ活動紹介

元気な高齢者を支援する「生き活き教室」では、いろんな活動を展開しています。このコーナーは、それぞれのクラブ活動の指導者や会員さんが、どんな思いで活動をされておられるかを、活動内容とともに紹介していきます。

【歩こう会】

元気の元は、「一歩から」を motto に地域内の色々なところを歩いています。きつとどこかで私たちに出会った方も多いはず! ゆっくり歩



くと今まで気づけなかったことにも出会えて、須佐のこともお得なクラブです。

「一人で歩くと続かない」「健康のため」「須佐を知るため」という悩みや目標のために参加される方もおられます。みんなで歩けばあつという間にゴールに到着! 皆さんも、私たちと一緒に歩いて、元気を貯金しませんか?

○活動日 基本毎月第2水曜日

8時45分

○集合場所 須佐公民館

○持ち物 水筒、タオル等

公民館学級

公民館火災避難訓練！



須佐さつき学級

3月21日（木）、令和5年度最後のさつき学級を開催しました。

今回は「もし、公民館で火災が起きたらどう避難すればいいか」を学ぶため火災避難訓練を行いました。

講師は、萩市消防本部予防課の職員で、最初にスクリーンを見ながら、須佐公民館の建物の概要や避難経路を示す誘導灯の場所などの確認を行った後、3階から脱出袋を使って、下へ避難する体験をしました。



結構高い～！

3階に脱出袋があるのを初め知った方もおられました。脱出袋の出し方も説明書を見ながら参加者が2人ですることができました。

いよいよ実践！地域おこし協力隊の山本さんに続いて、一人ずつ順番



脱出袋



恐る恐る前の方へ出ていく参加者

に降りていきました。袋の中はグルグルとらせん状になっており、垂直に落ちることはなく、途中で止まると少しもがいては下りる参加者もおられました。

最後は消火器訓練です。水の入った消火器での当て体験です。さすがに皆さん上手くできました。とっさの場合は慌ててしまつて、上手くできないこともあるかもしれませんので、日頃から、訓練に参加して知識を頭に入れておけばいいと思います。また、教室終了後は、令和5年度の閉講式を行い、

原田好里さん（山根丁東）た

だ一人が全6回参加され、「皆勤賞」に輝きました。皆さん、

次年度も是非、ご参加ください。



吉田館長から賞状を頂く原田さん

わらび摘みを体験！

弥富放課後子ども教室

4月17日（水）、放課後子ども教室で、農事組合法人弥富5区の皆さんにの厚意により、わらび摘みを体験しました。

まず、元気いっぱい挨拶をした後、年度初めでもあるので、一人ずつ簡単に自己紹介をしました。

早速、わらび摘みに挑戦！たくさん生えたわらびに、子ども達は大興奮。わらび摘み体験は、初めてという子どもがほとんどで、弥富5区の皆さんに、「下



これが「わらび」

の辺の茎は硬いから、上の辺りで摘んでね」

「ケンケン（葉っぱが広がつたわらび）になったのは、摘んだらだめよ！」など、摘み方のコツを教えて頂きながら、一生懸命摘んでいました。

わらび摘みの後は、場所を移動してふき採りをしました。採ったふきを運ぶ係、葉っぱを取って束ねる係、それぞれの役目を楽しみながら頑張っていました。

最後は、豊ヶ淵入口の菜の花畑で、



大きなふき、傘みたい...



「わらびどこにあるかなあ」



楽しかったね！菜の花畑で記念写真！

地域トピックス

入学おめでとう！

さあ、新年度が始まりました。

須佐地域内の小・中学校では4月8日（月）、それぞれ入学式が行われ、満開の桜が子ども達の新しい門出を祝っていました。



9名が元気に入学！

育英小学校

清々しい春の陽気の中、令和6年度の入学式が執り行われました。

真新しい制服を着た9名の新入生が、在校生・保護者・先生方に拍手で迎えられながら体育館へ入場し、ステージ前に用意された自分の席へ着席しました。

1年生担任の玉井先生から一人ずつ名前を呼ばれると、9名全員が大きな声で「はい！」と元気のいい返事をして立ち上がりました。

安江校長先生からの話では、『元気な返事やあいさつができること』『みんなと仲良くする』の2つの約束を新入生に伝えられました。

式が終わって教室へ戻ると、緊張も解け、友達と笑顔でおしゃべりしている顔が見られました。

これから6年間、長い学校生活が始まりますが、勉強はもちろんのこと、いろんな事にチャレンジしてほしいと思います。

（表紙写真）



14名が新たな一歩へ

須佐中学校

ついこの間まで、小学生で公民館へ出入りしていた子ども達も、あつという間に中学生になりました。

中学生の制服を着た新入生達は、はしやいで遊んでいた頃とは違って、きりつと一歩たくましく見えました。

梅津校長先生

生から『自分自身を大切にする』『友達を大切にすること』『授業を大切にすること』の3つのことを、新入生にお願いされていました。



子ども達の後ろから成長を見守る保護者の皆さん

中学生生活は短いけれど、ふるさと須佐を大事にしなから、将来の夢や希望に向かって自立心を養ってほしいです。

花いっぱいのまちに

地域の課題などをどう解消していくかを話し合う懇話会が令和3年度から始まり、その中で弥富・須佐に花畑を設置して人を呼ぼうという事業企画案が実現し、弥富地区では豊ヶ淵入口付近に、また須佐地区では、JAガソリンスタンドと郵便局前の国道191号線の線路わきの土手に、花畑が完成しました。

一万本のチューリップ

咲き誇る



4月に入り、須佐地区の線路わきの土手に植えられたチューリップが、赤・白・黄と見事に咲いて、通りすがりの歩行者や車からも目を引き、写真を撮ったり、ゆっくり散歩しながら鑑賞されたりなど、多くの人が



汽車と桜とチューリップのコラボ

関心をもたれていました。
4月7日（日）には、「須佐ふれあい花壇」の碑の除幕式典が開催され、地元住民を含む約30名と田中萩市長さんも出席され、お祝いの言葉を頂きました。

このチューリップを植えるにあたり「須佐ふれあい花壇の会」を会員を募って立ち上げ、萩市の助成金で一万本のチューリップの球根を購入され、地元の子ども達と一緒に植えたそうです。会長は大谷浄二さん（山根丁東）。「チューリップの後も、何かしらの花を植えて、地域の皆さんを元気にしたい」とおっしゃっていました。

弥富の菜の花も満開に！

弥富の豊ヶ淵入口に設置した、そばの花畑。春は黄色の菜の花畑になっていました。季節によって色を楽しめる花。本当に心が癒されます。



黄金に輝く菜の花畑を囲むかざぐるま

子育て支援日記 【テーマ／私の子育て】

見栄張りからまあいつかの子育て

須佐保育園副園長 中村麻里代

私には6歳離れた娘が2人います。長女は社会人。次女はこの春から大学生になりました。そんな2人を育ててきた中ではいろいろなことがありました。普段あまり気にしない私ですが、こんな私でも悩むこともありました。

そんな私がここまで2人の娘を育ててこられたのは、義理の父母のおかげでもありません。育休明けの子どもを預け、病気の通院。高校生になると駅までの送迎などたくさんのお話を私の代わりにしてもらいました。今は感謝しかありません。

さて、そろそろ私がどんな子育てをしてきたか恥ずかしながらお話をさせていただきます。

今思えば、私の子育ては小さな見栄張りから始まった気がします。「保育士の子なのに、しつけができていない」と言われるのが怖くて、とても厳しく育てました。

はじめのうち長女は、反抗することなくいわゆる育てやすい子どもでした。年長児の時に次女が生まれ

ると日に日に口が立つようになり、「ああ言えばこう言う」私と本気のけんかの日々が始まりました。感情的になり、夜は自己嫌悪と反省の毎日でした。

長女が保育園児の頃は、まだ市が合併していなかったため、長女のいる保育園で働いていました。2歳児で入園した長女。園で「母さん！」と呼ばれたとき、

とっさに「ん？お母さんはここにはいないよ」と答えました。



「絵本を読んで」

と持ってきたときも「違う先生に読んでもらって」と。その言葉を長女は未だに覚えており、妹に「(妹は)ええよね。私なんか小さい頃『お母さんはここにはおらん』って言われたんやけえ」と言っていることがあります。子どもながらにショックだったようでした。

しかしその頃の私は、「もし、娘に絵本を読んでいるところを誰かに

見られたら『自分の子だけ』と思われるかも」と、周りのことを気にしながら園ではほとんど長女に接しないようにしていました。

6年後、次女が生まれると、初めは長女と同じように厳しく接していましたが、次女は長女と全く違い、何を言っても響きません。我が道をいく次女に接していると「こりや言ってもだめだ」「まあいつか」と思うようになり、細かいことは言わず、最低限のことだけを言うようになりました。

次女が小学生になると、長女と私の毎日のけんかを目の前で見ていたからか、「こうしたらだめだ」「今は言わないでおこう」など、その時の雰囲気を見て立ち振る舞い、みんなが「くすつ」と笑えるようなことを言っては和ませてくれていました。そんな妹の姿を見ていた長女は「私の時には厳しく言っていたのに、妹には甘すぎる！」と言うようになり長女が次女に冷たく接することも多くなり、次女は姉に遠慮して、話しかけることも少なくなりました。物を渡すのでさえ、祖母や私を介して渡したり。そんな2人の娘を見てみると、「同じように接することができず、育て方を間違えたかな？」と悩むこともありました。

私たち3人がしていた習い事。イベントに私が参加できないときには、長女に妹のメイクを任せていました。周りの人から「妹の面倒をよく見ていたよ」と言われ、そんな長女の姿を聞くと「じやあ、なんで私にはそんなに反抗するの？私の長女に対しての態度がいけないの？」と涙を流したこともあり、長女からしてみれば「母親の代わりに自分が面倒見なくちゃ。周りの人に迷惑を掛けちゃいけない」と必死だったのでしょう。



そんな姉妹の最近の氷河期を超え、次女にとって、長女への存在は大きく何でも知っている姉を見て「姉ちゃんすごい！」と憧れの存在で慕うようになり、長女は長女で何かと頼らない妹の進路を心配するなど、最近では二人の距離も近くなり少しずついい関係になってきました。

今思うと、厳しく育てた長女は頼りになり助けられることも多く、次女はユーモアあふれる子に育ち家族の癒やしの存在になっています。姉妹それぞれが頼もしく育ってくれたことをうれしく思います。これからの子育ての形は変わりますが「まあいつか」のゆるーい気持ちで楽しんでいきたいと思っています。

益田家墓所を清掃

今年も須佐の領主であった益田家墓所の清掃活動が、4月20日（土）、益田木鶏クラブの皆さんと須佐元氣ネットの職員とで行いました。今年で8年目になります。

今回は、とにかく落ち葉の量がすごくて、落ち葉を飛ばす機械（ブロワー）を使って集めました。また、階段下の歩道部分（旧国道）は、普段何もされてないようで、草の根が側溝の土に張り、上手にこさぐとじゅうたんと巻くようにコロコロと巻け、ちよつと楽しくなりました。

清掃が終わって木鶏クラブの方に「落ち葉が多くて大変だったでしょ

う」とお聞きすると「頑強（がんきょう）でいくしかないね」というふうに言われました。頑強とは、粘り強く相手になかなか屈しないことです。ほんとにそうだなと感じました。今年も皆さんのおかげで、約1時間で清掃を終えることができました。皆さん、お疲れさまでした。



益田元祥墓石に神酒を...

花柄摘んできれいな花壇に

須佐放課後子ども教室



子ども達が本気で花柄摘み

萩市春の花いっぱいコンクールの審査前日の4月17日（水）、毎週水曜日に開催している放課後子ども教室の子ども達とスタッフが一緒に、花だんの花柄摘みをしました。須佐文化センター前の花だんは、放課後子ども教室で育てており、毎年、春と秋のコンクールに応募しています。春の審査は18日（木）に地域・団体部門が行われ、審査員から「今回ようできてるね、花柄もよく摘んである。落ち葉もようとちやったね」と、今までになく、たくさん褒めて頂きました。コンクールの結果は、次号でお知らせします。乞うご期待！

我が家のアイドル

3人姉妹の2人目。

お料理が大好きです。

夕飯のトマトを切ったり味噌汁作ってくれたりお手伝いしてくれます。

写真は、保育園のクッキングのエプロンと帽子を自分で出してきて母と同じようにエプロンして料理しています（笑）

いつもありがとう。

～母：福島友美さん（野頭）より～



凜花ちゃん：4才
（りんか）





まいど！

地域おこし協力隊の山本一貴です。今月号から隔月で始まるこの新コーナー。僕が感じた須佐地域のあれこれや、他の協力隊のメンバーの活動など、幅広く『おもしろいな！』と思ったことを掲載していきます。宜しくお願致します！

○基本情報

山本一貴 (やまもと かずき)
平成3年12月14日生まれ 31歳
大阪出身 前住所 周南市

まず今回は僕の自己紹介から。僕は大阪出身で、生まれてから30年間、大阪で過ごしていました。実家は大阪市城東区という所にあります。ザ・下町といった感じの町で大玉のたこ

焼き7個入りが200円で買える「イマノ」というおすすめのお店がありました。因みに、ここ須佐にも城東区に「昔いたよ」という方が2人おられました。びっくりしたと同時に何だかうれしかったです。



イマノのたこ焼き

僕は元々、5年位前から地方への移住を妻と共に志していて、大阪の八尾市にある工場へ配達係や営業職として勤めながら、連休があれば、全国各地へ下見の旅行を重ねていました。北海道、東北、中国地方、九州、気になっていた所は実際に自分の目で見に行きました。最終的にどこに移住するか判断する時にはどこも良いところを感じてなかなか決めかねていたのですが、3連休になると大阪から通っていた周防大島がある山口県が自分たちに丁度いいのではないかという決定に至り、周南市に職を見つけて移住してきました。周南では原木市場で働いていました。現場作業員としてフォークリフ

トに乗って原木の積み下ろしや選別、その他原木の管理作業を経験しました。林業に携わることができるとも嬉しい仕事でした。約1年の間過ごした周南も、とても良かったのですが、山口県内を週末にぐるぐると回っているうちに、僕と妻の心の中には「もう少し田舎っぽい、山口県の日本海側に住みたい」という気持ちが大きくなっていました。



原木市場での一幕

どうやったら日本海側に住めるかなど方法を探していると、妻が須佐地域での地域おこし協力隊の募集を見つけてきました。人づくり・地域づくりに関わることが出来る公民館での活動内容を目にして、「これがやってみたい！」ということで応募しました。

山口県にきて約1年4か月。山口県はやっぱりええ所だなと思っています。須佐にきて約4か月。須佐は

おもしろいことに溢れているなと感じています。

タイトルの「ぼちぼちいくで〜」は僕が大事にしている言葉で、何事も長く続ける為には大事な考え方かなと思っています。協力隊の活動や私生活を通じて、まずは僕自身が須佐の歴史や文化・地理、その他『おもしろいこと』をたくさん知りたいと思っています。そして、その『おもしろい』達を須佐の人から、県内の人、中国地方の人、全国の人にまで広げていきたいです。

今回は自己紹介の回でした。他にも書きたいことがありましたが、次の楽しみにとっておきます。ぼちぼちやっていきます。おおきに！



最近、僕の農園が完成しました。(本町上)



旧須佐町中央公民館

図書(本)が足りない・・・

図書館オープン当時、約3万冊の蔵書で、図書(本)が無いのは図書館じゃないと批判されながらも、順調に運営は行われていましたが、やはり利用者が増えれば、書架の空きスペースが気になります。

マスコミの取材が多くなる中、図書館運営の中で心配ごとはありませんかとの問いかけに、「図書が足りてない」ことを発信していました。

マスコミの報道に対して、全国から寄贈図書が寄せられるようになり図書館職員は、図書の登録作業に追いやられることとなりました。

6千冊の図書の寄贈

中でも平成10年5月には、福岡県飯塚市在住のIさんから6千冊の図書寄贈申し出があり、取りあえず飯

塚市のIさん宅を訪ねて見ました。Iさんは約1万冊の本を所蔵されており、将来民間の図書館をやりたいと書籍を購入してきたが、図書の重みで住居の床が抜けそう



Iさん宅の書架の一部

だということ、蔵書が足りない須佐図書館に図書の寄贈を申し出られ

たものでしたが、問題はこの図書をどうやって須佐まで運ぶのかという大きな課題が・・・。1冊500gとしても3t以上、結局ダンプカーで須佐まで運ぶという話となりました。

朝早く須佐を出発し、関門海峡を渡り飯塚に到着、狭い住宅の路地入り、Iさん宅にダンプカーを横づけ

で書籍を積み込みました。

書架から、段ボール箱に書籍を詰め込み、車へと作業を繰り返し6千



図書寄贈されたIさん夫婦

冊の書籍は約2時間あまりで、積み込み作業は終わり、一路須佐図書館へと向かうこととなりました。

6千冊という膨大な図書の登録には、随分時間はかかりましたが、Iさんの思いと貴重な資料は、須佐図書館の財産となりました。

色々な形の寄贈図書

また、本の寄贈者の中には普通では考えられない、書店に並ぶ前の新刊を寄贈して頂くという、不思議な事にも遭遇。これは、図書が店頭に並ぶ前に本の紹介や総評を専門とする職業(本の魅力を最大限アピールするためにカバーの上から巻く「帯」に本の紹介やキャッチコピーを作る職種)の方に一方的に送られてくる書籍で、読んでしまった本は廃棄しか

ないとのこと、しかしその本が売れる本とは限らないが、その本を寄贈してもらったこともあります。このような不思議な体験をとおし、須佐図書館の蔵書は増えてきました。

(東京須佐会の皆さんの紹介事案)

須佐図書館へ金銭的な寄付

次に、図書の寄贈だけではなく100万円、200万円といった須佐図書館に對しての寄付で、それだけ好きな書籍を買ってほしいとのこと、寄贈者の名前をとり〇〇文庫とつけて貸し出しを行っていました。市町村合併後萩市は100万円の寄贈があれば、ちやっかり図書館の購入予算から100万円が削減されているという始末、寄贈者の意を踏みにじる行為が財政当局は平然としてやっていました。今はどうか分かりませんが、当時は寄贈者の意を活かすために出来るだけ書籍購入での寄贈を奨励したものでした。

こうして、開館以来本当に地道に図書が集められ、着実に一冊ずつ蔵書も増えてきましたことは、住民の皆さんの協力の賜物だと思っています。

ぶらぶらタムラ

まちあるき



タモリに負けずわが町を紹介

「ブラタモリ」ならぬ『ぶらぶらタムラが、わが町を紹介します。今回は、先月に引き続き須佐の高山に鎮座する「行者様」について、ご紹介させて頂きます。

行者とは・・・



そもそも「行者」は、本来仏道修行者を意味していましたが、中世時代頃から山中等で荒行をする修験道の苦行者も含められるようになり、その後山岳信仰者を山に導く先達者も含めたと言われています。その昔は、高山山頂でも修行者の姿をよく見かけたものです。

この「行者」となった人は、修業によって神通力を持ち、神と人との仲介者であると考えられ、「祈禱（きとう）／神や仏にかなえてほしい願いを伝え、加護が受けられるように祈ること」を行って、人々に信じられてきたと記録されています。

高良（野頭）集落をはじめ遠近の信仰者で賑わう例祭

この「行者様」と称される館のある所は、高山北端の嶺にありますが高良（野頭）の区域内に設けられたのではないかと憶測しています。また、その昔に集落再編がなされ、高良と野頭を総合したとも考えられます。

毎年4月7日には、この館もはじめ周辺には、幟（のぼり）を立てて「行者様」の例祭が高良集落内の各戸を廻り当家（とうや）によって催されていました。現在は社の総代の指揮によって催されています。

ちなみに、文献によりますと、野頭の集落名は、「先手野頭に野頭敷馬」という人が居た為に地名を野頭とした。」との記録があります。

神と佛が結びつく

神佛習合の思想

このたび「行者様」と称される館に参拝することに試みるに当たり、険しい山道の独り歩きは、熊の出没や山の遭難事故等を思うと、腰の引ける思いでしたが、幸いにして、本社のお世話人で総代長Mさんの現地案内のもとで、現地のあれこれ、そ

して歴史概要をご紹介して頂く等のこともあって、この館は「神と佛からなる神佛習合の思想からなるもの」等を知ることが出来ました。



行者様の館内部

さらに、幸なことに、当日偶然にも遠く下関市からの熱心な信仰者の方にも現地でおめにかかることが出来ました。

こうして、様々なことを現地に見て、文献を調べ、関係者の皆様方からお話しを聞いて、貴重な体験をさせて頂いたことに、感謝を致す次第であります。

特に、総代長Mさんには、現地案内や古来からの「行者様」にまつわる歴史上のお話し等を賜り、格別にお世話になりました。ここに本紙面

をおかりして厚くお礼を申し上げます。

信じれば報われることも・・・

おわりに、「信じれば報われる。」との思いのもとで、「行者様」の永劫発展を念じてやみません。

かつてこの高山は、「神山」や「神霊の山」として、地元では崇拜されていた口説がありますが、その証となるものを知り、見ることが出来ましたので、登頂を終え、登山靴を脱ぎ帰路につきました。

つづく

お願い

平成30年タモリさんが萩に来て、萩の町を探索された様子がNHKで放映されました。住民の中には「タモリさんなんてどうせ須佐なんかにはや来りやあせん」との声。そんな折、「タモリは居ないけど、須佐にはタムラなら居るよ」との意見の中このコーナーが始まりました。

あれから6年間色々な処を紹介してきました。これから皆さんから、地域をもっと知ってもらいたい場所がありましたら公民館まで連絡下さい。 ☎⑥2310



まちの駐在さん



この1年で、駐在所へ届けられる「落とし物」はありましたか？
それは、何点くらいありましたか？
その中で、おもしろいものや変わったものがあれば、教えてください。



【不審な業者による訪問購入に注意】

須佐駐在所：衛藤豊文

須佐駐在所では取り扱いが少ないので、山口県全体のお話をします。

令和5年中、山口県内の警察署等に届けられた落とし物の件数は、約18万8,500件、そのうち、現金が約1億9,400万円になります。

届けられた落とし物のうち、持ち主に返還できたのは、約2万1,000件で、全体の約13%と低い割合になっていますが、現金については、第1位が「カード類」、第2位が「財布」、第3位が「運転免許証」と、なくしたら生活に困る大切なものばかりです。

落とし物や忘れ物をした時は、次のことをしてください。

○スーパーやお店などで落とした場合は、その施設に問い合わせをし、見つからない時には、警察署や駐在所、交番に届け出る

○クレジットカード、キャッシュカードや携帯電話機などを落とした場合は、契約会社等に紛失の連絡をする

落とし物の中で珍しいものとしては、「インコ」(18羽)、「亀(11匹)」などの動物も届けられています。



山口県知事夫人を迎えての開園式(写真はS60.5.15日発行紙から)

あの頃の須佐は 40年前の須佐を 振り返る…「広報すさ」

よこじま広場完成

このコーナーは、元気だった頃の須佐町を「広報すさ」から引用し、住民の皆さんに当時の元氣な姿を届けたいと思い先月号から始めました。

漁港整備事業、漁村集落環境整備事業等の実施により、浦地区の姿がすっかり変わりました。その中で、地区住民の共通の課題であった子どもの遊び場づくりに関心が高まり、漁協青年部、婦人部を中心として地区住民が総参加。創意と工夫を凝らし共同作業に取り組んだ結果、すばらしい手作りのちびっこ広場が完成しました。浜から姿を消した横島の名がとられ「よこじま広場」と名前が付けられました。

「地域おこし協力隊」新たに須佐地域へ配属！

●性格

少し臆病。感情の起伏はあまりなく、わりと落ち着いているかと思えます。物事を白黒はっきりさせたいところはあるかと思えます。

●隊員に応募した理由

純粋な田舎へのあこがれ。そして都会から離れた生活はどういうものかという好奇心。そして、そこで暮らす人々はどのような生活をしている世界観があり、なにより今までとは違う世界に飛び込み、人生経験を積みたかったからです。

●須佐地域の印象

イメージ通りのTHE田舎。穏やかで鳥の鳴き声も美しい。古き良き昭和を少し感じます。都会より人の温かさを感じます。



中 崎 陽 介

(なかざきようすけ)

H12.3.13生

大阪：松原市出身

★現在

居住地：山根丁東

所属：須佐総合事務所

須佐おもてなし協会

●今後の計画とメッセージ

まず、いかマルシェを盛り上げることに従事したいです。そして、そこで学んだことを、須佐を盛り上げることや自分の自立に活かしていきたいです。

どうぞ、よろしくお願いします。

●その他

○これまでの職業

アルバイト（コンビニ、レストランのキッチン、引っ越し屋など）

○趣味・特技

趣味は音楽を聴くこと。

特技は、今はまだありませんが、英語を勉強中です。



(お知らせ)

生涯学習発表会 作品募集！



○展示期間 6月15日(土)

～17日(月)

(正午まで)

○申し込み 6月4日(火)まで○

内 容

絵画、ちぎり絵、絵手紙、写真、色鉛筆画、書、手芸、工芸、陶芸、パッチワークなど、日頃活動で作成しているもの、また、個人で作成しているものなど、たくさんの作品を展示したいと思っていますので、どしどしお寄せください。

★申し込みは、

須佐公民館 ☎6-2310

弥富公民館 ☎8-2044

※「地域振興部門」と「市民窓口部門」が
統合し「市民生活部門」になりました。

中山隆安(弥富診療センター所長)
谷岡昌子(市民窓口部門)

(退職)

▼須佐診療センター
所長 廣川慎一

廣兼健一

▼弥富公民館館長補佐

▼弥富支所長 日笠正昭

▼地域包括支援センター 河村浩次

▼市民生活部門主査 吉田桂子

▼産業振興部門総括 西田祐司

▼所次長兼市民生活部門総括 豊田謙次郎

【総合事務所関係】
(転入)

【学校関係】
(転入)

＜育英小学校＞
教頭 児玉慶太(防府市立右田小)

教諭 宮路源内(福栄小)

教諭 玉井さやか(新探)

教諭 齋藤恵子(多磨小)

教諭 池田健人(新任)

栄養士 白上靖子(むつみ小)

＜須佐中学校＞

校長 梅津麻由美(越ヶ浜中)

教諭 緒方利江(越ヶ浜中)

教諭 山本崇雄(萩西中)

教諭 井上幹二郎(萩東中)

よろしく
お願いします



生涯学習作品コーナー

【俳句】

ひたすらに待つ荒城の月あかり

(松原) 鈴川千絵

参道のしだれ桜の誇らしげ!

(山根丁東) ゆめはるか

【短歌】

春爛漫ひときわ目立ちし二色花

源平桃だとおそわれました

(8区) 鈴木ミツヨ

防災の無線のラジオ体操に

杖を片手に頑張る手足

(山根丁東) ゆめはるか

うららかな弥生の庭に櫻咲く

凜と一輪眩しく映える

(青葉台) 田村雅利



晴の日の迎え花生け祝いする 大きく育て立派に育て

花見するグラウンドゴルフした後で 弁当囲む老人クラブ

うちの仔も人間ならば小学生

そろそろお利口になって欲しいな

満開の桜みごとで散るときも 早足に散ってゆく

活き魚刺身にしようと見ておれば

やめてくれと目で合図



須佐老人クラブ 美男美女会



大塚 均 (1911-1998)

飢餓救済運動記念切手

切飢餓救済のリボンで囲った地球とキャンペーンのマーク。国連食糧農業機関 (FAO) の提唱する飢餓救済週間3/17-3/23が始まる事を記念して全世界的に切手が発行された。昭和38年 (1963年) 6月21日10円郵便切手が日本でも発行された。大塚均 56 歳時の作品です。



須佐の偉人伝 大塚均

86

このコーナーでは、切手デザインの大家である大塚均(山根丁東出身)さんがデザインされた約120点の作品を随時紹介しています。切手カバー図案も合わせてお楽しみ下さい。

2024 5月 地域カレンダー 須 ＝須佐公民館 弥 ＝弥富公民館 ☺ ＝生き生き教室 ＝学校・保育園行事 ＝スポーツ関係 ＝子ども対象行事 保セ ＝保健センター 弥G ＝弥富グラウンド						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
5/10～16は 『愛鳥週間』です 			1 	2	③ 憲法記念日	④ みどりの日
⑤ 子どもの日	⑥ 振替休日	7 須 パッチサークル 9:30 ■心配ごと相談(弥富)	08 ☺ つどい会 10:00 須 色えんぴつ画 13:30	09	10 ☺ 手芸クラブ 9:30 ☺ 囲碁・将棋 13:30 ■行政相談(須佐)	11
12  ※母の日	13 ☺ エコクラフト 9:30 ☺ 麻雀クラブ 13:00 ☺ ピンポンクラブ 13:30	14 	15 ☺ 歩こう会 8:45 須 ボッチャ教室 19:00	16 ☺ 生き生き体操 8:45 須 さつき学級 10:00 ■無料法律相談(田万川)	17	1 ^o 
19 家庭の日	20 ☺ 麻雀クラブ 13:00 ☺ ピンポンクラブ 13:30	21 須 あおば勉強室 13:30	22 弥 グラウンドゴルフを 楽しむ会 9:30 須 色えんぴつ画 9:30 ☺ 音楽療法 13:30	23	24 ☺ 手芸クラブ 9:30 ☺ 囲碁・将棋 13:30	25
26 ■クリーン大作戦 (地域内全域)	27 弥 弥富さつき学級9:30 ☺ エコクラフト 9:30 ☺ 麻雀クラブ 13:00	28	29 	30 	31 	

※詳細はチラシを
ご覧ください



〇日時 6月2日(日)

午前9時30分開会

須佐ソフトバレーボール大会

伝言板

●弥富さつき学級
「グラウンドゴルフ」
〇とき 5月27日(月)
午前9時30分から

〇ところ 弥富グラウンド
※雨天の場合
弥富交流促進センター
室内履きシューズ

〇持参物 雨天の場合
〇申込み 5月20日(月)までに
弥富公民館 Tel.8-2044へ

●須佐あおば勉強室
地域探訪①
「もっと須佐地区を知ろう!」
〇とき 6月11日(火)
午前9時～12時

〇ところ 須佐公民館集合

〇参加費 300円

〇申込み 6月5日(水)までに
須佐公民館 06-23310へ

※当日は、歩きやすい靴でお
越しください。

毎月第3日曜日は「家庭の日」
今月は『19日』です
★家族みんなで過ごしましょう!

須佐地域の人口 (R6.3月末現在)

	世帯数	人口	前月比
須佐	946戸	1,695人	(△9人)
弥富	217戸	399人	(△4人)
合計	1,163戸	2,094人	(△13人)

昨年比 世帯数△16人 人数△67人

益田館にて
五月人形展開催

期間 4月27日(土)
～6月9日(日)

